

関連項目：教育活動プラン⑤

「気づき、考え、実行する」を合言葉に、子どもたちが主体的に生活をつくる

目的

「気づき、考え、実行する」を合言葉に自分の生活を絶えず見つめさせる。立ち止まって考えることを大切にする。児童が主体的に生活目標や活動を考え、各委員会から全校生に呼びかける活動を通して、自分たちで自分たちの生活を向上させる自治能力を育てる。

内容

● よりよい学校にするために

- 運営委員会が「すてきな中央っ子になるための6か条」を発表し、全校生に呼びかけた。服装について見直し、全校集会のたびに呼びかけることで、全校生の意識を高めることができた。
- 4月に運営委員会が「あいさつを工夫しよう」と全校に呼びかけたことで、各学級で「名前を呼ぶ」「いつもありがとう」と一言付け加えるなど、各学年に合った「工夫」を考えることができた。
- お掃除名人集会「さしすせそうじ」(さ)っととりかかり、(し)ずかに、(す)みずみまで、(せ)っせと(そ)うじをすることを呼びかけて取り組んだ。ふきふき名人やはきはき名人、ぞうきんしぼり名人を紹介することで、よい行動を評価し、よきモデルとすることで成就感を味わわせ、自尊感情を高めることにもつながった。2学期から縦割り班で、清掃を行ったことでよい行動がさらに広がっている。
- 体育委員会からボールの使い方についての呼びかけを行い、ルール作りを行った。身の回りの問題を自分たちで考え、一人ひとりがルールを守ろうとする意識を高めた。

● 楽しい学校にするために

- 集会委員会がお笑いカラオケ大会を企画し、1～6年生までが自分の得意なことで楽しみ、それぞれのよさを認め合う場作りができた。それをきっかけに「クリスマス会」「カルタ大会」「冬の中央ガーデン～樹木クイズ大会」「早口言葉大会」など各委員会が楽しい集会を企画した。
- 縦割り対抗長縄跳び大会では、縄の中に入りにくい下級生が入るタイミングを体感できるようにそっと背中を押したり、背負ったり、手をつないだりして一緒に跳ぶ姿も見られた。苦手な気持ちや不安な気持ちが少しでも減るようなかわりを、体験を通して学び合う場となった。



(振りをつけて踊る1年生)

● みんながなかよくなるために

- 運営委員会の提案でいじめについて考える全校児童集会を行った。11月の生活目標『あなたの言葉でみんな笑顔 広げようなかよしの輪』を合言葉に、いじめ0宣言を全校生で取り組んでいった。なかよしアンケートの結果から、半分の人が友達からいやなことを言われたりされたりした経験があることが分かり、全校児童集会を開いて話し合った。いじめられた子の手紙文を紹介した後、いじめる子、見ている子のそれぞれの立場を役割演技して見せ、学年に応じた立場から児童の意見を発表し合った。
- 人を傷つけることは言葉や暴力だけではなく無視するという行為もあることを全校生で話し合い周囲の人の関わり方が大切なことを学び合った。また、解決するためには、大人に相談することの大切さも学んだ。話し合ったことを学級でもう一度話し合うことで一人一人が自分のこととして考え直すことができた。



(中央小のいじめの実態は…?)

成果

縦割り清掃では、上級生も下級生もそれぞれの役割を果たし、黙々と清掃に取り組んでいる。振り返りアンケートでは、「いつも黙って時間いっぱいしている」と自信をもって応えた児童は39.9%（7月）から54.2%（12月）に増えている。また、全校児童集会後「いやなことを言われたり、言ったりした」児童は168名から124名に減少した。97.2%の児童が学校は楽しいと感じている。よりよい学校にするために各委員会が今何をすればよいかを考え、自分たちできまりやルールを作ったり友達との関わり方について考えたりする気風が生まれてきた。また、各委員会が楽しい学校にするためにアイデアを出し、それを企画したり活動したりすることによって満足感や達成感が生まれ、自分たちで楽しい学校を作ろうとする自覚が生まれた。